

## 用語の解説

### 第5章

生態ピラミッド：生産者である植物を草食動物（一次消費者）が食べ、それを肉食動物（二次消費者）が食べ、さらにそれを肉食動物（三次消費者）が食べています。生産者の上に消費者を、消費者の上により高次の消費者を積み上げると、ピラミッド状の形になります。これが生態ピラミッドです。生態ピラミッドには、生物個体数、生物体の量（体重など）または生物体生産速度（一定の期間に取り込む物質の量やエネルギーの量）で表したものがあ

る。化学合成生物：炭酸同化において、無機化合物を酸化するときに発生するエネルギーを用いる生物。（炭酸同化に光のエネルギーを用いることを光合成という）

分解者：生態系における栄養動態論の観点からみて、有機栄養生物のうち、死んだ生物体や排出物あるいはその分解物を分解して、その際に生じるエネルギーによって生活し、有機化合物を生産者が利用できる簡単な無機化合物に戻す役割を果たしている生物あるいは生物群をいう。

還元者：分解者と同意。

媒質：生物体を取り巻いている物質。特に気体・液体を指す。

物質代謝：生体内で行われる物質の変転。これは多くの酵素反応の複合された複雑な化学変化であるが、生物学的役割の明らかな多数の反応系に分解して考えることができる。

生産エネルギー量：生物が外界に存在する物質を材料として自己の体を作り上げる過程で、有機物内に固定される化学エネルギー量。

付着藻類：水中植物、底泥、礫、岩石などの表面に付着している珪藻、藍藻、緑藻、紅藻などの総称。

珪藻：細胞膜は珪酸を含んだペクチン質で、葉緑素、葉黄素のほかに珪藻素を含んでいるために褐色または黄褐色にみえる藻類。

藍藻：細胞質中に葉緑素と水溶性の藍藻素、時には紅藻素をもち、藍青色または、灰赤色、褐色にみえる藻類。

緑藻：細胞内には核と1個ないし数個のカロティン、葉緑素、葉黄素をもち、緑色または黄緑色にみえる藻類。

現存量：ある時点に任意の空間内に存在する生物体の量。

強熱減量：蒸発残留物をさらに約600 で灰化したときに揮散する物質の量。強熱減量の大部分は有機物。

そうもうがた  
造網型：その昆虫が分泌する絹糸で捕獲網を作るもの。

こちやくがた かぎ  
固着型：吸盤や鉤で石などにくっついているもの。。

ほふくがた  
匍匐型：石の上などをはいまわるもの。

けいそうがた  
携巢型：筒形の巣をもっていて、石の上などをはいまわるもの。。

遊泳型：主に泳いで移動するもの。

くっせんがた  
掘潜型：普段は砂、または泥の中に潜っていることが多いもの。

任意採取法：見つけた昆虫やクモを網を用いたり、手で直接採取する調査方法。

ベイトトラップ法：紙コップ・缶などに餌を入れておき、地面と同じ高さに口がくるように埋め、地上を歩き回る昆虫を採集する調査方法。

ため糞場：タヌキには決まったところで糞をする習性があります。しかも何匹ものタヌキが同じ場所を利用します。このようなところをため糞場と呼びます。

壤土：土性区分の一つの土性クラス。土性は、砂、シルト、粘土の重量%の違いによって、土性クラスに区分される。壤土は、粘土が0～15%、シルトが20～45%、砂が40～65%の間の土性クラスを指す。同様に、シルト質壤土は、粘土が0～15%、シルトが45～100%、砂が0～55%の間の土性クラスを指す。